Jiman wa chie no ikidomari.
Kannin wa isshô no takara.
Makan tane wa haen.
Neko wo ou yori sara wo hike!
Oni no me nimo namida.
Pen wa ken yorimo tsuyoi.
Ron yori shôko.
Son shite toku tore!
Tanki wa sonki.
Uji yori sodachi.
Warau kado niwa, fuku ga kuru.
Yudan taiteki.
Zen wa isoge!

XV. UTA.

Itsumo konoyo wa, ano Fuji-no-ne wo
Nagamete iru yona ki de itai.

XVI. TEGAMI.

Môshiagemasu.

Kitaru 4 gatsu 1 nichi no gogo 6 ji kara, Ôsaka-Shibu Kanji Sakurane Hakushi no kangei wo kane, 4 gatsu no yoriai wo hirakimasu kara, osashikuri oide wo negaimasu.

Kao, osoreirimasu ga, oide no arunashi wo orikaeshi oshirase kudasaretai.

Yoriau tokoro wa,
Takaratei (Kanda, Awajichô 1 chôme.)
Bansanhi wa, 1 Yen.

Taishô 5 nen 3 gatsu 25 nichi.

Rômaji-Hirome-Kai.

XVII. IROIRO.

NIPPON GINKÔ

NIPPON YÛSEN KAISHA

HIEIZAN ENRYAKUJI

KYÔBASHI-KU
GINZA ITCHÔME

Meiji 40 nen TÔKYÔ-SHI de kakageta machinafuda

MUKÔ GUNJI
(RÔMAJI-HIROME-KAI KANJI)

TÔKYÔ-FU SHIBUYA-MACHI
ÔAZA SHIMO-SHIBUYA 942.
DENWA SHIBA 4840.

Nafuda.

世界の地名人名の例

（およそ明治三十五年文部省の委員取調の報告に據る）

Africa アフリカ
Alexandria, アレキサンドリア
Ameriça アメリカ
Arabia アラビア
Argentine アルゼンチン
Aristoteles アリストテレス
Asia アジア
Australia (Ôstralia) オーストラリ「ア
Austria (Ôstria) オーストリア
Bangkok バンコック
Bergium (Bergii) ベルギー
Berlin ベルリン
Bismarck ビスマルク
Bombay ボンベー
Bordeaux ボルドー
Boston ボストン
Brazil ブラジル
Caesar ケーザル
Calcutta カルカッタ
California カリフォルニア
Canada カナダ
Canton カントン（廣東）
Chicago シカゴ
Chili チリ
China (Shina) シナ
Christ キリスト
Columbus コロンバス
Constantinople コンスタンチノープル
Copenhagen コペンハーゲン
Dante ダンテ
Denmark デンマルク
Deutschland (Doits) ドイツ
Edward エドワルド
Egypt エジプト
English (Igilis) イギリス
Europe (Yôroppa) ヨーロッパ
Finland フィンランド
France (Frans) フランス
George ジョルジ
Geneva ゼネバ
Gladstone グラッツドストン
Göthe ゲーテ
Greece グリース（ギリシア）
Hamburg ハンブルグ
Harbin ハルビン
Hawaii ハワイ
Himalaya ヒマラヤ
Holland (Olanda) オランダ
Hongkong ホンコン（香港）
Honolulu ホノルル
Hungary ホンガリー
India (Indo) インド
Italia イタリア

Judea ジュデヤ
Kant カント
Kiel キール
Lincoln リンカーン
Lisbon リスボン
Liverpool リバプール
London ロンドン
Luther ルーテル
Madrid マドリード
Malay マレー
Manchester マンチェスター
Manila マニラ
Marseilles マルセーユ
Melbourne メルボルン
Mexico メキシコ
Moscow モスコー
Muhammed マホメット
München ミュンヘン
Napoli ナポリ
Napoleon ナポレオン
Nelson ネルソン
New York ニューヨーク
Niagara ナイアガラ
Norwey ノルウェー
Panama パナマ
Paris パリ
Peking ペキン(北京)
Persia ペルシア
Peru ペルー
Petrograd ペトログラード
Philippine フイリッピン
Portugal ポルトガル
Quebec ケベック
Rio de Janeiro リオデジャネロ
Rome (Roma) ローマ
Rousseau ルソー
Russia ロシア
San Francisco サンフランシスコ
Seattle シアトル
Schiller シルレル
Servia セルビア
Shakespeare シェクスピア
Shanghai シャンハイ(上海)
Siam シャム
Siberia シベリア
Singapole シンガポール
Sokrates ソクラテス
Spain スペーン
Sues スエズ
Suisse (Suis) スウィス
Sweden スウェーデン
Sydney シドニー
Tibet チベット
Tsingtao チンタオ
Turkey (Torko) トルコ
Vancouver バンクーバー
Vienna ウィンナ
Vladivostok ウラジオストク
Washington ワシントン
William ウィリアム

おくがき

日本におけるローマ字は，既に三世紀以上の歴史を持つて居て，その傳來は，我が文明史の上に光彩を放つて居る．

ローマ字の傳來及び初期の發達

そもそも日本にローマ字が傳來したのは，室町幕府の末の戰國時代に西洋人が我が國に渡來したのに伴なつた事である．　大友宗麟や細川忠興や黑田長政の諸侯の如きは，早くローマ字の印を用ゐ，キリスト教の傳道師らは，天正十九年卽ち西曆一五九一年にはキリストの傳をローマ文字で出版し，文祿二年卽ち西曆一五九三年にはローマ字文の平家物語や，イソップ物語を出版し，なほローマ字書きの日本語辭書や文典などをも，その後に出版したと云ふ．

鎖國時代のローマ字

斯樣に日本のローマ字は，今から三百二十餘年前から發達し始めたので有るが，江戸幕府は鎖國政策を行ひ，キリスト教を嚴禁し洋書を禁斷したので，日本のローマ字文の發達も亦中絕したので有つた．　八代將軍が國益をおこすため蘭學を許されてから，官民共に蘭書を讀む者が出來，我が國民は再びローマ字に接觸するに至つた．　しかし世が世で有つたから，日本のローマ字文が復興する氣運が開けなかつた．　幕末に將軍家に，假名の專用を斷行して國字改良相成りたいと献言された前島男爵も，ローマ字會での演說において，

"當時は鎖國攘夷の時で，ローマ字を我が國に入れて用ふると云ふ事は，ゆめにも想像の出來なんだ世の中でした"．

と述べられたのである．　しかし洋學をした人々の中に，洋字の便利に氣づいてゐた人が有つたことは疑ない．　また開國主義の島津齊彬公の如きは，機密の手紙を自らローマ字で書かれたと云ふ．

明治維新から後のローマ字

間も無く時勢が一變して明治維新となり，開國進取を以て國是とし給ふ大御代となつた．　そこで明治二年五月，南部義籌氏は時の大學頭山内容堂公に，洋字を採用し，之によつて國語を修められたいと建白され，五年四月さらに“文字ヲ改換スルノ議”を文部省へ建白された．　南部氏は，前かた幕末の蘭學者大庭雪齋の和蘭文語を讀んだ時から，國字改良の必要を感じてゐたと語られた．

その頃米國在留大辨務使で有つた森子爵は，亂雜な國語では國運の進歩を妨げるから，寧ろ英語を採用して國民教育を行つたら如何かと考へて，之に對する意見を歐米の學者にたづねられた．　すると，米國のホイトニー博士は，國語一變說を非難し，一國の開化は必ずその國語に依らねばならぬから，最上の改良は日本語をローマ字で綴る事であると答へられた．　これは五年六月の事である．　六年九月に西周氏は，“洋字ヲ以テ國語ヲ書スルノ論”を明六雜誌に揭げられ，洋字を國字とする十利三害を擧げて洋字を採用すべしと斷定された．　當時，福澤諭吉氏も國字に對して次の如き意見を持つて居られたと，森村男爵が述べられた．

“早く教育上の妨げとなる漢字を日常生活，世俗の上から退けなければならぬ．　見よ，文明の進んだ國は，無益有害なものはどしどし棄てゝ國運の發達に留意して居るでは無いか．　隨て教育は勿論，日々民間に活用されて居る言語文字も，簡單に正確に出來て居る．　之に反して東洋が進歩に後れて居るのは，種々他の原因もある事だらうが，コタツヤグラを列べたやうな漢字を以て，繁多なる世の中の事務を取扱つて居る事が，與つて最も力あるのは明かであると，度々話された”．

七年十月廣島師範學校長久保田讓氏は，下等小學から國語のローマ字綴りを教授するが宜しいと，文部省に建議された．　その翌年，國學者の黑川博士は，洋々社談といふ雜誌に，“言語交字改革ノ說ノ辨”と題して，國語を更へることは不可能であるが，國語を書き表はすのに便利な文字を採用することは宜しいと說かれた．　なほ博士は，ローマ字を以て古事記などを綴ることを唱へられ，百人一首の如きは，その年にローマ字綴りのカルタとされた．　九年六月文部省はローマ字掛圖を出版したのである．

ローマ字會時代及び前後

明治十年代になつて國字問題が團體的運動を以て唱へられる氣運となつた．　即ち假名の會とローマ字會が創立された．　ローマ字會が創立される前に，十五年四月矢田部博士は，東洋學藝雜誌に“羅馬字ヲ以テ日本語ヲ綴ルノ說”と題し，東京語をローマ字で綴つて之を全國の小學校で教授するやう，有志者が一致して之を文部省に建議するが宜いと說かれた．

宅(雄二郎)博士も，十七年四月の東洋學藝雜誌に，自分は畢竟ローマ字說であるけれども，暫く漢字假名併用說に從ふと說かれた．　さうして外山博士が同雜誌に“羅馬字ヲ主張スル者ニ告グ”と題して，ローマ字會を起すべき事を主唱されたのは，同年七月の事である．

同年十二月同志の人が集會してローマ字會の發起會を開き，外山正一，山川健次郎，北尾次郎，寺尾壽，松井直吉，箕作佳吉，隈本有尙，矢田部良吉の八氏が，その創立委員に推され，それから會則を定めて後，役員を選擧したのは十八年一月である．　ローマ字會の目的は，無論，日本語を書くにローマ字を以てすると云ふ事である．　そこでローマ字綴りを取極める必要があり，十八年一月，書き方取調委員四十人を選擧し，起草委員が作つた原案について委員が愼重に議定し，同年四月に發表になつたのが，ローマ字會式である．　その後は，東京語音に基づいた此の式の綴り方が，最も普通に內外國に行はれるものとなつた．

是より先にはヘボン式といふ綴り方が行はれて居た．　その綴り方は最初ヘボン氏が，從來行はれて居た日本語のローマ字綴りを整理して，慶應二年和英語林集成を出版し，更に之を修正して明治六年に再版したので有つた．　ローマ字會式は，從來行はれて居た綴り方に大修正を加へたもので，その組織が大いに整ひ，日本語を綴るのに實用的で且つ學理的のものとなつた．　それでヘボン氏も，十九年にその辭書の第三版を出す時には，自らローマ字會式に改めたのである．　ローマ字の綴り方にはローマ字新誌社の如き異說もあつたけれども，ローマ字會式は實際において優越な勢力を占めたのである．

ローマ字會は十八年六月から機關雜誌として毎月“Rômaji Zasshi”を發行し，そのほかの單行本をも發行して，之を國內に弘めたのみならず，歐米

等の學會及び出版會社へも之を寄贈して，日本語のローマ字綴りの普及に努めた．　ローマ字會は明治廿五年頃まで繼續して，ローマ字採用說を鼓吹し，日本語のローマ字文の基を固めたのである．

國語問題の復興及びその調査事業

明治二十七八年戰役の後，我が國威の揚つたと同時に國語問題の氣勢も揚り，卅一年七月になつて加藤弘之，井上哲次郎，上田萬年，嘉納治五郎，矢田部良吉らの諸氏が發起されて，國字改良會が出來た．　同會は國字改良の諸說を研究選擇するのを目的としたが，翌年十月帝國教育會の內に國字改良部が設けられ，その際に國字改良會は國字改良部に合併され，同部の內に羅馬字調査部が置かれた．

卅三年一月帝國教育會長辻男爵は，“國字國語國文ノ改良ニ關スル請願書”を內閣及び文部省をはじめ各省大臣，貴族院議長並に衆議院議長に提出された．　兩院はその請願を採納し，更に政府に向つて“國字國語國文ノ改良ニ關スル建議”をしたのである．　その結果，同年四月に文部省において先づ國語調査委員を設けられ，卅五年三月國語調査委員會官制が發布されて，翌月加藤弘之男を委員長に，嘉納治五郎，井上哲次郎，澤柳政太郎，上田萬年，三上參次，渡部董之介，高楠順次郎，重野安繹，德富猪一郎，木村正辭，大槻文彥，前島密らの諸氏を委員に任ぜられた．同會は同年六月までに九回の會議を開いて調査方針を決議し，七月四日の官報を以て之を公けにした．　その第一には，“文字ハ音韻文字ヲ採用スル事トシ假名羅馬字等ノ得失ヲ調査スルコト”と議定してある．

ローマ字ひろめ會及び世論

さて民間においては，卅八年十月ローマ字ひろめ會が創立された．　同會は日本語をローマ字で書くことを弘めるのを目的とし，西園寺公望侯を會頭に，林董伯を副會頭に推し，評議員を設け，幹事を置き，同志の會員を天下に募つて，目的の事業を經營し，機關雜誌として“Rômaji”及び“Katei no Rômaji”を每月發行し，單行本をも發行し，昨年は創立滿十周年祝賀會を擧げ，林伯爵去後缺けて居た副會頭に鎌田榮吉氏を推し，益々事業の發展に努めて居る．　ローマ字ひろめ會の外に，日本のローマ字社も有つて，雜誌“Rômazi Sekai”を每月發行し，單行本をも發行して居る．　ローマ字ひろめ會は評議員會の大多數の決議を以てローマ字會式の綴り方に準據することに定まつて居る．　さうして實驗上ローマ字會式に若干の修正を加へた綴り方が追々と成立つて來た．　之をローマ字ひめ會式とも呼ぶのである．　日本のローマ字社の綴り方は假名主義のもので，ローマ字會やローマ字ひろめ會の綴り方とは趣を異にして居る．

明治廿七年南部義籌氏がローマ字で綴られた土佐日記の如きは，歷史的假名遣に據つてある．　なほ大正三年に片山(國嘉)博士が發表された“羅馬字の假名式遣方”は，歷史的假名遣をローマ字綴りで表記することを努められたもので，この方面における今日までの代表的研究である．　專門學的に國語の古音を表記する場合には，必ず斯の如き方法に據らねばならぬ事は，勿論である．　さうして國語の音韻の變遷を調べた上で古音を表記する事は，實に容易ならぬ事業である．　今後この方面の研究も益々進まねばならぬ．　しかしながら普通一般に用ゐる我が現代のローマ字文の綴り方は，須らく發音的であり，且つ之を標準語音で統一せねばならぬ．大正四年發行の上田博士のローマ字びき國語辭典や榮田近藤兩氏のローマ字索引國漢辭典なども，この綴り方に據つてある．

ローマ字ひろめ會は，明治三十九年十一月大會の決議により，小學校でローマ字を課することを文部大臣に建議し，その理由の中に“ローマ字は今日すでに國民必須の文字となつて居ますから，アラビア數字と等しく，小學校で是非之を授けねばならぬと存じます．”と陳べたのである．　四十年二月衆議院から，右と同じ趣意で小學校で國語のローマ字綴りを教授すべき事を政府に建議し，同年五月に開いた全國聯合教育會でも，小學校の國語科でローマ字を課すべき事を可決し，四十五年五月帝國教育會で催した全國小學校長會議においても，土地の情況により相當の學年からローマ字を課するが宜いと決議したのである．

教育調査會と國語問題

國語調査委員會の廢止された大正二年六月から教育調査會が設けられ，先づ多年の懸案である教育制度改正案が提出された．　しかし此の改正案は，單に教育制度の形式的變更によつて滿足な解決を得られない，どうしても教育の內容に立入つて改正を加へねばならぬと云ふ理由で，九鬼

男爵らから"言語文字の整理輕減に關する建議案"が提出された. ついて成瀨仁藏氏, 高田博士らから, 前の建議案の趣旨を徹底させるため, ローマ字を採用し, 言文一致で進むのが宜しいと云ふ趣意で, "國語文字改善に關する建議案"が提出された. 教育調査會では, 兩建議案を特別委員(九鬼男爵, 關直彦氏, 水野子爵, 早川千吉郎氏, 成瀨仁藏氏, 鵜澤博士, 嘉納治五郎氏, 江原素六氏, 名和又八郎氏ら)に附託して審議させ, 四年十一月總會において國語國字國文の整理改善の事を解決するため, 權威ある研究調査の機關を興し, 國家百年の大計を圖るべき趣意を以て, 內閣總理大臣の管理する國語調査機關を設置すべき事を建議した.

以上は,日本におけるローマ字の歷史をちらと見たのに過ぎない. 之については拙著"現代の國語"の中にも揭げて置いた. さても, ローマ字ひろめ會の事業について"*London Times*"(ロンドン タイムス)が,"日本語にローマ字採用が行はれるなら, 明治維新の大改革は終局の成功を見るであらう."と說いたことは, 我が國民の深く慮るべき言葉である. ローマ字を國字とするか否かは, 姑く別問題とするも, 少くともローマ字も亦アラビア數字と等しく國民の利用すべき文字となつて來たこと, 及び今後ローマ字利用の必要が段々增して行くことは, 火を見るよりも明かである.

ローマ字綴り及びその文章

顧みて我が國語のローマ字文の發達を尋ねると, かの文祿二年出版の"FEIQE MONOGATARI"(平家物語)に,

"Feiqe no yurai ga qiqitai fodoni, ara ara riacu xite vo catari are." (平家の由來が聞きたい程に, あらあら略して御語り有れ)

と書いてある如く, 第一期のローマ字文が既にその頃の口語で發音的に記されたことは, 最も眼をつけるべき所である. このローマ字文は, その頃の日本西部の口語音をローマン語流のローマ字音價で記したものである. 之を現代語音でローマ字會式で記せば,

Heike no yurai ga kikitai hodoni, araara ryaku shite okatari are!

となるのである. その後に我がローマ字文が中絕し, さらに八代將軍の時から蘭學が漸く開け, 幕末から明治の初年にかけては, 英學や, フランス學や, ドイツ學などが開け, その影響で日本語のローマ字綴りも頗る不統一な

もので有つた. それが漸次整理統一されて來た事については, 本書の第三講及び"現代の國語"の中に說いてある. 西周氏は, 明六雜誌に"洋字ヲ以テ國語ヲ書スルノ論"を揭げられた先覺者である. しかし其の頃では, まだ時代の標準語といふ考が立たなかつたためで有らう, 同氏は, 和語の雅俗相異なるものは,"綴字ノ法"と"呼法"とを立てて,

イマ キカム ベンキヤウ ヲ セズ バ ナルマジ
"ima kikam." "benkyau vo sezu ba narumaji."
キカウ ナルマイ

の如く調和させるが宜いと說かれた. その後に假名の會やローマ字會の諸先哲は, 假名文やローマ字文は, 現代の口語文體で書かねばならぬことを覺られ, その頃から通俗文藝や小學讀本の上でも, 口語文體が漸く生立つてきて, 遂に明治三十年代になると, 口語法の研究が盛となり, 特に國語調査委員會では, 各地の方言を取調べた上で標準語法を制定する運びとなり, 且つ世の中では口語文體卽ち言文一致が流行する樣になつて來た. 現にローマ字ひろめ會などで用ゐて居る文章は, 悉く口語文體である.

本書の著述について

さてローマ字ひろめ會が創立される年に,私は七月から五回につ亙て雜誌"教育研究"に"國語科とローマ字文"と題して, 國字改良問題の決着如何に拘らず, 國民教育でローマ字を課する必要を說き, 且つローマ字文の書き方について研究すべき事を述べた. その後その研究を續けてゐたのである. この書物は, 我が現代の國語に普通行はれて居るローマ字綴り及び語法の習慣に從ふ方針を取り, なるだけ自分一家の意見を加へることを差控へる樣に努めた. ついては之に關する種々の書物を參考した中で, 特に次に記す著書などを擧げねばならぬ.

○ローマ字にて日本語の書き方. (ローマ字會著)
○ローマ字早學び. (矢田部良吉著)
○和英語林集成. (再版及び三版) (*J. C. Hepburn* 著)
○ローマ字會の雜誌及び發行書.
○假名の會の雜誌及び發行書.
○文字のしるべ. (*B. H. Chamberlain* 著)

○文部省のローマ字書方取調報告. (官報)
○ローマ字ひろめ會の雜誌及び發行書.
○ローマ字手引. (藤岡勝二著)
○日本のろーま字社の雜誌及び發行書.
○明治年間の官撰及び民撰の小學讀本の類.
○はなしことばのきそく. (石川倉次著)
○句讀法案. 分別書き方案. (文部省圖書課著)
○音韻口語法取調報告及び分布圖. (國語調査委員會編)
○日本口語法. (吉岡郷甫著)
○日本口語法. (保科孝一著)
○助動詞聯結一覽表. (芳賀矢一著)
○日本文法論. (山田孝雄著)
○日本文法新論. (金澤庄三郎著)
○新文章講話. (五十嵐力著)

明治の初の碩學の試みられたローマ字文と, 本書に說くが如きローマ字文とを較べて見れば, 殆ど隔世の感があるほどの發達である. しかしながら是は決して一人が賢くて出來た事では無く, 全く先進の研究と時代の進歩との賜物である. 今本書を公にするに當つても, 深くその恩惠を感謝する次第である.

今後のローマ字文研究について

"ローマは一日で出來たもので無い." と云ふ諺は, 我がローマ字文の過去についても云はれるばかりで無く, また其の前途についても云はれる事である. 我等は, 是までの人々の恩惠を感謝すると同時に, その緒を繼いで今後ますますローマ字文の發達する樣に努めねばならぬ. それについて今心づいた所を少し述べて置きたい.

一. この世界的文字を開國主義を以て用ゐるのには, 必ず寫音的に國語を綴らねばならぬ. 是までも最も普通に行はれて居るローマ字文は寫音的であるが, なほ今後も益々この綴り方を錬りあげて行かねばならぬ.

二. いはゆる且爾乎波卽ち助詞などは, 成るべく之を他の詞に續けて書く流儀と, また成るべく他の詞から離して書く流儀と, その中間のものと, 色々ある. 本書は現今の國定讀本の假名文の分ち書きにも成るだけ調和し得る方法に從つた. 何分にも, 一つの文章を書く上では, その分ち書きが統一して居なければならぬけれども, 分ち書きには, 殊に研究の餘地があるのであるから, 先づ國定讀本などの分ち書きについて研究し始めるが宜からう.

三. 寫音主義のローマ字文においては, 漢字にたよらなければ辨別しかねる樣な同音異義の言葉を淘汰して, 之を適當に言ひかへる樣に努めたい.

四. 國語における母音同和, 例へば bayai (場合), guwai (工合) の如きは, そのyやwは單に隨伴音に過ぎないから, 之を表記するに及ばぬとの說もある. また, 之を表記するとしても, この類の言葉をよく調べ上げて見ねばならぬ. 本書の第四講音韻變化の條には, その例だけを記して置いたけれども, その調べあげの出來るまでは, 姑くそのyやwを省いて置いて宜い.

五. 我が國語の方言音のローマ字綴り方を取調べて, 標準語音との關係を明かにすることが, ローマ字文の進歩に必要である. 新領土などの言語の音韻表記法についても同樣である.

六. 外國語を我が國語の中に採用するについて, なほ能く調査してその書き方を定めねばならぬ.

七. ローマ字文の書き方は, 國語法の基礎の上に取定めねばならぬ. その基礎の上に取定めねば, 健全にローマ字文が發達して行かれない. また國語法のためを云へば, ローマ字書きに依らねば, 精確に國語法を會得し難い. 今後の國語法研究者は, ローマ字書きに注意して, 國語の眞相を明かにすべきである.

八. つまり我が國語は, ローマ字書きの標準語辭書及び語法書を持たねばならぬ. その臺帳が出來なければ, 我がローマ字文は十分に發達しかねるのである. 斯の如き標準語辭書及び語法書は, 今後の國家的事業として大成すべきものである.

終に臨んで尙一言したい．　著者は本書が高價なものとならぬ樣に，なるだけ內容を縮約した．　隨て解說を省き，實例に依つて讀者の了解を望んだ所も，少くは無い．　また本書はローマ字文の筌蹄とするのを目的としたから，語法的說明も，なるだけ現今普通に行はれて居る說き方に從つた．研究の未熟からして出來た不都合な廉については，懇に識者の是正を願つて置く．　また前に述べた諸事業の進步に從つて，今後修正を加へて行きたいと思ふ．　何分にも今，生立ちつゝある我がローマ字文を，同胞諸君と共に力をあはせて育てあげたいと云ふのが，拙著の志である．

大正五年青葉の頃

著者しるす．

（終）

關西專賣
發行所
振替口座大阪四三番
大阪市東區淡路町四丁目　會社合資　大阪寶文館
振替口座東京二八〇番
東京市日本橋區本石町三丁目　東京寶文館

大正五年七月五日發行
大正五年七月壹日印刷

印刷者　東京市牛込市谷加賀町一丁目拾貳番地　青柳十一郎
發行者　東京市日本橋區本石町三丁目拾七番地　大葉久吉
著作者　日下部重太郎

定價金五拾五錢

印刷所　東京秀英舍第一工場

伯爵大隈重信著

改訂 國民讀本

（文部省檢定濟）

和裝 定價金四拾五錢
全一册 送料金 八 錢

大隈伯曩に『國民讀本』を著し、國民の經典として至嚴至大の權威を有したりき。然るに伯は時勢の推移に應じて改訂を施し、繁を削り要を加へ、舊本と全く其の面目を異にせる「改訂國民讀本」を公にせらる。これ時代の進運に伴へる結果にして大正國民の要求に基づける反響なり。敢へて一本の備付をすゝむ。

國民小讀本

（文部省檢定濟）

和裝 定價金參拾五錢
全一册 送料金 八 錢

前記の『改訂讀本』は其の文章稍高尚なるため、少年者流之が解明に困苦する者少なからず。伯爵乃ち本書を公にせらる。而して其の程度は尋常小學終了期に相當せしめ、義務教育修了者の讀解に便せり。されば先づ『改訂國民讀本』に入る前、本書を讀解せば頗る妙なり。請ふ一閲を賜へ。

吉田幾次郎著

英語獨修者の新福音

最新 英語獨修書初步

■上製全三册 ■定價金六拾五錢 ■送料金八錢

初めて英語を學ばんとする人に好適なり

最新 英語獨修書

■上製全二册 ■定價金 壹圓 ■送料金八錢

中學一年修了程度の素養ある人に恰好也

最新 高等英語獨修書

■上製全二册 ■定價金壹圓貳拾錢 ■送料金八錢

中學三年修了程度の人に適する好參考書

此三書は『英語研究』『中等英語』『ABC』三雜誌の主筆として有名なる吉田先生の著にして、英語の讀方、譯解、會話、作文、文法、習字等あらゆる事項を最も叮嚀に解り易く說明せられたるものなり、而して此三書には何れも「質問券」「習字添削券」を附したれば、これを利用して吉田先生に質問し添削を乞ふことを得べし。業務の餘暇英語を獨修せられんとする人々及び中等諸學校學生諸君の自修用として絶好の英語獨習書なり。

趣味津々

陸軍教授 安東伊三次郎 安藤秋三郎共著

生物概論

生物の進化と勢力の經濟

（布裝美本全一冊）定價金壹圓五拾錢 送料金拾貳錢

本書は趣味最も多き博物書にして ▲生物ニ食物ノ必要ナル理由▲生物各體形ノ意味▲歩行ト倒行トノ優劣▲人類二脚獸類四脚歩行ノ理▲空中飛行ニ必要ナル條件▲生殖、蕃殖、遺傳ノ理▲生物進化ノ根本主義▲人類ガ最高ノ發達ヲナセル理▲生物進歩ノ徑路等の活ける問題に就て秩序的に討究し、平易に物理的化學的に說明し、生物の進化は徹頭徹尾勢力の經驗にありとの主義の下に愉快に論述せるものなり。

好評嘖々

東京帝國大學農科大學教授 理學博士 白井光太郎校閲 獨逸協會學校中學講師 松山亮藏著

國文學に現はれたる植物考

（布裝美本全一冊）定價金壹圓五拾錢 送料金拾貳錢

本書は古くは竹取物語より近世の俳諧書に至る迄、本邦國文書數十百種に現はれたる植物につき科學的研究を爲し、今と昔の植物名の一致せざるを對照し、網羅せる品目約五百種、或は文例、和歌又は俳句を引用し、或は絶美なる三色版を以て圖解する等、國文學上曖昧なる植物に確乎たる解決を與へ、國文の解釋に資するに努めたるを以て、國文學研究者植物學研究者は勿論、各學校教員・學生に取りて座右無二の好伴侶たるべし。

東京高等師範學校訓導 馬淵冷佑著 （文部省通俗圖書認定）

內外教訓物語

天の巻 地の巻 人の巻 各一冊 定價 各金壹圓八拾錢 送料各金拾六錢

本書天之巻には所謂童話寓話の類を蒐集し、地之巻には實際的の話を收め、人之巻には歷史的の話を收む。而して其話材は汎く內外に亘り古今に通じ、名話といふ名話は殆ど巻中に收めて餘蘊なく、趣味津々たる中に巧に教訓の意をほのめかせり。

千葉縣高等女學校長 高野松次郎著 （文部省通俗圖書認定）

學校家庭食卓談話

布裝 全一冊 定價金壹圓五拾錢 送料金拾貳錢

本書は學校及び家庭に於て兒童・子女に對し、談話すべき場合の材料を集錄せるものにして、四月より翌年の三月に至る十二ヶ月に區分し、其の季節に適切なる各種の話材を排列す。眞に學校家庭に於ける好個の讀物たり。

教育實際社編纂
大正祝祭日記念日 新訂
講話資料
上製 全一冊 定價金壹圓八拾錢 送料金拾貳錢

法學士 福地惣治謹撰
憲法發布勅語演義
洋裝 全一冊 定價金拾錢 送料金貳錢

東京高等師範學校訓導 馬淵冷佑著
尋常小學讀本參考
上製 全一冊 定價金壹圓八拾錢 送料金拾六錢

靜岡縣師範學校教諭 森本常吉著
全國定教科書
應用漢字の研究
上製 全一冊 定價金六拾五錢 送料金六錢

大分縣師範附屬小學主事 秋山兵三郎
埼玉縣師範附屬小學主事 北澤眞 共著
尋常小學
算術教授指針
上製 全一冊 定價金六拾五錢 送料金八錢

東京高等師範學校教授 棚橋源太郎著
新理科教授法
上製 全一冊 定價金壹圓貳拾錢 送料金拾貳錢

東京寶文館發行書目

理學博士 齋田功太郎 學習院教授 佐藤禮介共著
參考
植物學講義
上製香革 定價金貳圓五拾錢 全一冊 送料金拾貳錢

本書は普通植物學の要項を網羅し、之に詳細なる說明と實驗の方法とを詳說し、一讀植物學全般に亘る學理及び應用を容易に會得せしむ。卷中約四百の繪畫を挿入し、且附錄には植物名學術語・和文對照表の索引を附す。

兵庫縣御影師範學校教諭 山鳥吉五郎著
修正增補 參考
動物學講義
上製 定價金貳圓 全一冊 送料金拾貳錢

本書は發行以來好評を博し、重版數次今回修正增補せられたるもの、動物學の全體につきて叙說し、挿畫數百、且之が索引をも加へられ、又進化論をも附說せられて、近來稀に見る所の好參考書なり。

東京帝國大學內 史學會調査
外國地名人名一覽 稱呼
全一冊製 定價金拾錢 送料金貳錢

理學博士 齋田功太郎 學習院教授 佐藤禮介共著
參考 **植物學講義**
全一冊製 定價金貳圓五拾錢 送料金拾貳錢

兵庫縣御影師範學校教諭 山鳥吉五郎著
修正〜參 增補〜考 **動物學講義**
全一冊製 定價金壹圓 送料金拾貳錢

理學士 森 總之助著
最近 **物理學講義**
全一冊製 定價金壹圓八拾錢 送料金拾貳錢

理學士 阿部隆次著
物理化學要論
全一冊製 定價金壹圓 送料金八錢

廣島高等師範學校教授 長俊一 同 大島鎭治共著
參考 **近世化學講義**
全一冊製 定價金四圓五拾錢 送料金拾六錢

神奈川縣博物研究會編
國定教科書に於ける **博物解說**
全一冊製 定價金貳圓 送料金拾六錢

東京高等師範學校訓導 馬淵冷佑著
內外 **教訓物語**
全三冊製 定價各壹圓八拾錢 送料各金拾貳錢

東京高等師範學校教授 高木敏雄著
新イソップ物語
全一冊製 定價金壹圓貳拾錢 送料金八錢

千葉縣立高等女學校長 高野松次郎著
學校家庭 **食卓談話**
全一冊製 定價金壹圓五拾錢 送料金拾貳錢

東京寶文館編輯所編
小學校に於ける **學藝會及資料**
全一冊製 定價金壹圓五拾錢 送料金拾貳錢

愛知縣女子師範學校附屬小學校主事 平松折次編
尋常科教科書 **人名地名索引**
洋裝全一冊 定價金拾五錢 送料金貳錢

東京寶文館發行書目

熊本縣師範學校附屬小學校主事 大元茂一郎著
小學材料編入 **法制經濟綱要** 全上一冊製 定價金七拾五錢 送料金八錢

東京音樂學校長 湯原元一著
生活及社會觀 全上一冊製 定價金壹圓貳拾錢 送料金八錢

大阪府天王寺師範學校長 村田宇一郎著
自治民育十二講 全上一冊製 定價金壹圓參拾錢 送料金拾貳錢

文學士 吉田靜致 陸軍教授 橋本文壽共著
家族制度の將來 全上一冊製 定價金壹圓五拾錢 送料金拾貳錢

文學博士 幣原坦著
滿洲觀 全上一冊製 定價金壹圓貳拾錢 送料金拾貳錢

文學博士 幣原坦著
世界小觀 全上一冊製 定價金貳圓 送料金拾六錢

東京寶文館發行書目

米澤高等工業學校教授 櫻井寅之助 米子中學校長 原田長松共著
近世 **無機化學原論** 全上一冊製 定價金五圓 送料金拾六錢

理學博士 龜高德平著
化學と人生 全上一冊製 定價金壹圓八拾錢 送料金拾貳錢

工學博士 鳥潟右一著
鳥潟無線電信電話 全上一冊製 定價金參圓五拾錢 送料金拾六錢

北村政次郎 津守英五郎共著
通俗 **無線電信無線電話** 洋裝全一冊 定價金四拾五錢 送料金六錢

東京帝國大學史料編纂官 藤田明著
征西將軍宮 全上一冊製 定價金參圓 送料金拾貳錢

神戸高等商業學校教授 中川靜著
信書精鑒 全上二冊製 定價各金壹圓八十錢 送料各金拾貳錢

東京高等師範學校教授文學士 吉田靜致著

倫理學要義 全上一冊 製定價金貳圓 送料金拾貳錢

文學博士 福來友吉著

心理學講義 全上一冊 製定價金貳圓八拾錢 送料金拾六錢

教育實際社編纂

新國定讀本教授資料 全上一冊 製定價金壹圓 送料金八錢

東京帝國大學教授農學博士 横井時敬著

小學農業教授法 全上一冊 製定價金壹圓 送料金八錢

大倉商業學校教授 古館市太郎著

初等商業教授資料 全上一冊 製定價金壹圓 送料金八錢

文學博士 星野恒閲 文學士 青木武助著

修正增補 **日本大歷史** 全上一冊 製定價金參圓 送料金拾六錢

實文館發兌書目

東京高等師範學校教授 北垣恭次郎著

小學地理教材 上四冊 製定價 (1)樺太朝鮮滿洲壹圓 (2)亞細亞洲大洋洲金六十五錢 (3)歐羅巴洲金壹圓五拾錢 (4)亞弗利加兩米兩極金壹圓 送料各金八錢

東京高等師範學校助教授 可兒德 群馬縣師範學校教諭 矢島鐘二共著

小學校遊戲の理論及び實際 全上一冊 製定價金壹圓八拾錢 送料金拾貳錢

東京等師高範學校助教授 可兒德著

學校體操教授要目準據小學校體操教程 全上一冊 製定價金壹圓 送料金八錢

東京女子高等師範學校訓導 堀七藏 滋賀縣師範學校主事 園田愛之助共著

小學校に於ける家事教授法及資料 全上一冊 製定價金壹圓五拾錢 送料金拾貳錢

東京女子高等師範學校附屬小學校研究會編纂

小學校裁縫教授の實際 和裝一冊 定價金八拾五錢 送料金八錢

東京高等師範學校教授 棚橋源太郎 同 岡山秀吉共著

手工科教材及教授法 全上一冊 製定價金六拾錢 送料金八錢

實文館發兌書目

東京高等師範學校教授　岡山秀吉著

●小學校用色彩指教圖　一掛軸　定價金壹圓五拾錢　送料金貳拾錢

東京女子高等師範學校教授　宮川壽美子著

●女房說法鐵砲　三ぼう主義　上一冊製　定價金八拾錢　送料金八錢

東京高等師範學校講師　山松鶴吉著

●通俗教育講演要領及資料　上一冊製　定價金貳圓參拾錢　送料金拾六錢

竹原久之助著

●小學校に於ける特別教示　上一冊製　定價金八拾五錢　送料金八錢

竹原久之助著

●小學校に於ける實用的施設及教材　上一冊製　定價金貳圓　送料金拾六錢

竹原久之助著

●小學校に於ける美感的施設　上一冊製　定價金壹圓　送料金八錢

323
174

終